

平成 24 年（2012 年）3 月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 博明
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(1) 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度の当社経営環境は、欧州債務危機に端を発する欧米を中心とする景気低迷、および先進国向け輸出の減少に伴う新興国経済の成長スピードの鈍化、更には歴史的な円高を記録する等、輸出商材を中心に厳しい状況が継続いたしました。

このような中、スローダウン傾向にあるものの依然高い成長を続けるアジア圏に対して、海外拠点との連携を通じたビジネス拡大に積極的に取り組みました。また、加工賃等コストアップに対しては価格の維持・改定、コスト合理化および高付加価値商材へのシフトを図りました。

この結果、売上高は 1,122 億 1 千 8 百万円（前期比 29 億 4 千 3 百万円、2.6%の減収）、営業利益は 35 億 2 千 7 百万円（同 2 億 2 千 2 百万円、6.7%の増益）、経常利益は 36 億 5 千 8 百万円（同 3 億 2 千 5 百万円、9.8%の増益）、当期純利益は 21 億 3 千 6 百万円（同 2 億 5 百万円、10.6%の増益）となりました。

【連結業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月)		前 期 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	112,218	-	115,161	-	▲2,943	▲2.6%
粗利益	8,499	7.6%	8,280	7.2%	+218	+2.6%
営業利益	3,527	3.1%	3,304	2.9%	+222	+6.7%
経常利益	3,658	3.3%	3,332	2.9%	+325	+9.8%
当期純利益	2,136	1.9%	1,931	1.7%	+205	+10.6%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 23 年 1 月 1 日から同 12 月 31 日となっています。

【単体業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月)		前 期 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	111,533	-	114,529	-	▲2,995	▲2.6%
粗利益	8,338	7.5%	8,155	7.1%	+182	+2.2%
営業利益	3,445	3.1%	3,238	2.8%	+207	+6.4%
経常利益	3,578	3.2%	3,280	2.9%	+297	+9.1%
当期純利益	2,075	1.9%	1,891	1.7%	+184	+9.7%

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

【繊維関連】(増収、増益)

売上高は448億円。前期比36億円(8.7%)の増収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、アパレル向け高機能素材の販売や縫製品の OEM 販売が大きく拡大し、また学校体育衣料向けも順調に拡大しました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング向けが旺盛な受注により大きく伸長しました。また、メディカル・介護衣料向けは、有力アパレルへの販売が拡大しました。
- ブラックフォーマル分野は、当期後半からのアパレル在庫調整等の影響を受けました。
- 輸出は全般に恒常的な円高に苦戦しました。特に欧州向けは経済停滞の影響もあり生地販売が低迷し、中東向けも今年に入りイラン情勢緊迫化の影響を受けました。
- 新機能原糸<クラカーボ>や<ミントパール>は、輸出を中心とした顧客開拓が順調に進展し、収益拡大に貢献しました。
- 上海現地法人では、テキスタイルチームの整備が完了し、同地で展開する日本および欧米のスポーツブランドとの取組みがスタートしました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

(資材分野)

- メディカル関連資材は好調な需要を背景に販売が拡大しました。一方、スポーツ靴用資材は顧客の在庫調整の影響を受けました。
- 産業資材は、アジア市場の拡大に伴い、自動車用ゴム資材、高強力繊維<ベクトラン>、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンの販売が伸長しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、ランドセル用途が好調に推移しました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内での競合が厳しい中、上海現地法人を核とする中国オペレーションによるビジネスが徐々に拡大しました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(減収、増益)

売上高は674億円。前期比65億円(8.8%)の減収。

- ポパールフィルムは、欧米景気の停滞を受けた海外の液晶TV関連メーカーにおける生産調整の影響を受けました。
- <エパール>フィルムは、冷蔵庫用断熱板用途、壁紙用途等、好調に推移しました。
- 溶剤等化学品関連は、一部商材で震災後の工場停止の影響により出荷数量が減少しましたが、その他の商品が好調に推移し、全体として堅調に推移しました。
- 耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、LED反射板用途が海外液晶TV関連メーカーでの生産調整の影響を受けました。

- エラストマー事業は、輸入品コンパウンドが復興需要に対応し販売を伸ばしました。一方、熱可塑性エラストマー<セプトン>は、アジア向けを中心に伸び悩みました。
- メタクリル樹脂関連は、液晶 TV、PC 需要の低迷によりアジア向け導光板用ペレット販売が低調に推移し、看板等国内汎用市場も競合激化の中苦戦しました。
- 環境関連資材は、濾過膜を中心とする工業膜および水浄化・精製用活性炭の販売が順調に拡大しました。

(3) 平成 25 年 3 月期の連結業績予想(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

当社の販売状況は、米国経済の復調や、日本での復興事業による内需の下支え等、昨秋以降続いた需要停滞が回復しつつあることを受け、徐々に持ち直しております。しかし、原油高騰による諸コストの高まりや、中国をはじめとするアジア新興国の成長鈍化からの回復遅れ等、経営環境は依然厳しく、不安定な状況にあります。

このような懸念材料がありますが、顧客や海外拠点との連携を通じてアジア市場の成長を積極的に取り込むための施策を織込み、増収増益を予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期公表 (対前期比)	1,200 (+6.9%)	40 (+13.4%)	40 (+9.3%)	23 (+7.7%)

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上